2024年度第2四半期
決算報告書

プレスリリース

2024年7月24日

BNP PARIBAS

The bank
for a changing
world

2024年度第2四半期 決算報告書

プレスリリース

2024年7月24日、パリ

2024年度第2四半期の業績は非常に好調で、2024年度決算の方向性が確認された

営業収益（12,270百万ユーロ）は2023年度第2四半期[1]比3.9%増

- 当四半期はCIB部門が好調（2023年度第2四半期[1]比+12.1%）で、特にグローバル・マーケット事業において好調（2023年度第2四半期[1]比+17.6%）
- CPBS部門の営業収益は横ばいで、コマーシャル＆個人向けバンキング事業は良好な傾向を示し（手数料は2023年度第2四半期[1]比+7.4%）、逆風は2024年度下半期に弱まる見込み
- IPS部門の業績は、特に保険事業（2023年度第2四半期[1]比+5.2%）およびアセット・マネジメント事業[2]（2023年度第2四半期[1]比+9.8%）において好調

業務効率化およびコスト管理（7,176百万ユーロ）

- イタリアにおけるDGSへの拠出金の段階的影響（2024年度については2024年度第2四半期に計上された51百万ユーロ（2023年度については2023年度第3四半期および第4四半期に計上された51百万ユーロ））を除くとジョーズ効果はプラス（+0.4ポイント）
- 業務効率化策を引き続き実施：2024年度下半期は650百万ユーロで、うち350百万ユーロは2024年3月に発表した追加施策の一環

営業総利益（5,094百万ユーロ）は2023年度第2四半期[1]比3.4%増

リスク費用[3]は、当四半期の特殊な信用状況にもかかわらず、資産ポートフォリオの質の高さにより、40ベーシスポイント未満（33ベーシスポイント）

当グループの純利益（3,395百万ユーロ）は、非常に好調な業績を反映して、2023年度第2四半期[1]比1.6%増

1株当たり純利益[4]（2.81ユーロ）は、2023年度第2四半期[1]比+8.1%と大幅に増加

財務構造は非常に良好（普通株式等Tier1比率は13.0%）

- Bank of the Westの売却に伴う資本の再配分は、公表されている目標（普通株式等Tier1資本は55ベーシスポイント、2025年度のROIC[5]は16%超）に沿って順調に進んでいる
- 当初2025年度に予定されていたモデルの更新による影響（普通株式等Tier1資本は-10ベーシスポイント）

2024年度上半期業績を踏まえ、BNPパリバは、2024年度決算の方向性として、営業収益は2023年度[1]の営業収益（46.9十億ユーロ）から2%超増加、ジョーズ効果はプラス[15]、リスク費用は40ベーシスポイント未満、また当グループの純利益は2023年度[1]の純利益（11.2十億ユーロ）を上回る見込みであることを確認しました。

BNP PARIBAS

The bank for a changing world

BNPパリバの取締役会が2024年7月23日に開催され、ジャン・ルミエール会長が議長を務める中、当グループの2024年度第2四半期の業績が検討されました。

ジャン＝ローラン・ボナフェCEO（最高経営責任者）は取締役会の最後に、以下のように述べました。

「多角的かつ統合的なビジネスモデルを強みとして、当グループは、各事業部門の事業の勢いに支えられ、2024年度第2四半期において非常に好調な業績を達成しました。当グループは、顧客に最大限のサービスを提供し、特にアセット・マネジメント事業、ウェルス・マネジメント事業および保険事業において当グループのプラットフォームを展開し、CIB部門において市場シェアの継続的獲得を図り、資本の最適配分を維持するというコミットメントに引き続き注力していきます。また、2024年度下半期において、当グループは、業務効率化策を引き続き実施し、サイクルを通じて節度あるリスク費用の管理を維持します。BNPパリバは、経済サイクルの新たな局面に対応する体制が整っており、2024年度決算の方向性を確認しています。各チームの献身に謝意を表します。」

2024年6月30日現在の連結グループ業績

2024年度第2四半期の当グループの業績

営業収益

2024年度第2四半期において、**銀行業務純益**は、12,270百万ユーロとなり、2023年度第2四半期（調整後）[1]と比較して3.9%増でした。

ホールセールバンキング（CIB）部門の銀行業務純益は、3つの事業部門すべての好調な業績が複合的に影響したことにより、大幅に増加しました（前年同期比12.1%増）。特に、グローバル・マーケット事業（前年同期比+17.6%）は、株式・プライムサービス事業の営業収益の顕著な増加（前年同期比+57.5%）の恩恵を受け、FICC事業における減少（前年同期比-7.0%）を大幅に相殺しました。グローバル・バンキング事業の営業収益（前年同期比+5.4%）は、キャピタルマーケット事業（前年同期比+12.5%[6]）およびトランザクションバンキング業務（前年同期比+7.6%[6]）によるものでした。証券管理事業の営業収益も、手数料収入および正味受取利息の改善により大幅に増加しました（前年同期比10.5%増）。

コマーシャル＆個人向けバンキングサービス（CPBS）部門[7]の銀行業務純益は、横ばい（前年同期比-0.3%）でした。これは、特定の逆風（ベルギー国債、ECBによる法定準備金への付利の終了および合計140百万ユーロのインフレ・ヘッジ）の影響を除いた、手数料の増加（前年同期比+7.4%）および正味利息収益の増加（同+3.8%）を背景とする、コマーシャル＆個人向けバンキング事業の成長（前年同期比+1.7%）によるものでした。これらの逆風のうち最初の2つは、2024年度下半期に弱まる見込みです。

専門的金融事業の営業収益は、減少しました（前年同期比-3.6%）。これは、主としてアルバルとリーシング・ソリューションズ（前年同期比-5.5%）によるもので、これらは取扱高が増加したものの中古車価格の変動の影響を受けました。パーソナル・ファイナンスの営業収益は横ばい（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-0.9%）でしたが、ニューデジタル事業と個人投資家事業は非常に好調（前年同期比+9.5%）でした。

インベストメント＆プロテクションサービス（IPS）部門の銀行業務純益は、3.0%増加しました（リアル・エステートおよびプリンシパル・インベストメンツの寄与を除くと+6.5%）。ウェルス・マネジメント事業（前年同期比+6.1%）、保険事業（前年同期比+5.2%）およびアセット・マネジメント事業（前年同期比+9.8%[8]）は、当四半期において非常に好調で、引き続きIPS部門の増収を支えました。

営業費用

営業費用（7,176百万ユーロ）は抑えられ、当四半期における成長を支えました。営業費用の前年同期比の変動（前年同期比+4.2%）は、イタリアにおけるDGSへの拠出金の段階的影響（51百万ユーロの拠出金は、2023年度については第3四半期および第4四半期に支払われ、2024年度は第2四半期に支払われた）によるものでした。この影響を除くと、営業費用は前年同期比3.5%増となり、ジョーズ効果はプラス（+0.4ポイント）でした。さらに、業務効率化策は、2024年度下半期においても引き続き展開される予定で、2024年3月に発表した400百万ユーロの追加施策のうち350百万ユーロを含め、2024年度について発表されている1十億ユーロの65%を占める見込みです。

CIB部門の営業費用は大幅に増加しました（前年同期比+9.4%）が、営業収益の増加（前年同期比+12.1%）を下回りました。その結果、CIB部門全体のジョーズ効果は極めて高水準（+2.7ポイント）で、グローバル・マーケット事業（+6.3ポイント）および証券管理事業（+4.8ポイント）においても高水準でした。グローバル・バンキング事業の営業費用は、低水準であった前年同期と比較して増加しました（前年同期比+9.2%）。

CPBS部門[7]の営業費用は増加しました（前年同期比+5.6%）が、これは主として欧州・地中海沿岸諸国によるものでした。ユーロ圏におけるコマーシャル＆個人向けバンキング事業の営業費用は、イタリアにおけるDGSへの拠出金の影響を除くと、1.1%増となりました。前述の逆風の影響を除くと、ジョーズ効果はプラスで、1.5ポイントを上回りました。専門的金融事業の営業費用は、1.0%減少しました。 パーソナル・ファイナンスおよびニューデジタル事業のジョーズ効果はプラスでした。

IPS部門の営業費用は横ばい（前年同期比+0.1%）で、リアル・エステートにおいて大幅に減少しました。ジョーズ効果は、リアル・エステート以外のすべての事業部門で2ポイントを上回り、全体ではプラス（+2.9ポイント）となりました。

以上から、**グループ全体の営業総利益**は、当四半期において5,094百万ユーロとなり、前年同期（4,927百万ユーロ）と比較して3.4%増加しました。

リスク費用

当四半期のグループ全体のリスク費用は、752百万ユーロ[3]（前年同期は609百万ユーロ）となり、顧客向け融資残高の33ベーシスポイント相当で、当四半期の特殊な信用状況にもかかわらず、資産ポートフォリオの質の高さおよび分散化により、40ベーシスポイント未満にとどまりました。当四半期のリスク費用は、正常債権（ステージ1および2）に対する引当金の戻入275百万ユーロおよび不良債権（ステージ3）に対する引当金1,027百万ユーロを反映しています。

営業利益、税引前利益および当グループの純利益

グループ全体の営業利益は4,251百万ユーロ（前年同期は4,318百万ユーロ）となり、**グループ全体の税引前利益**は4,422百万ユーロ（前年同期は4,591百万ユーロ）となりました。

法人税率は、平均で20.8%と異例の低水準でした。これは、米国の税制変更を反映したもので、当四半期に計上された税金費用が一時的に減少しています。

当グループの純利益は、当四半期において3,395百万ユーロとなり、前年同期（3,343百万ユーロ）に近い水準でした。

以上から、**1株当たり純利益**[4]は2.81ユーロとなり、前年同期比8.1%増となりました。

人工知能

この業績に加えて、2024年度第2四半期には、人工知能（AI）の意欲的かつ規律ある開発が継続されました。これは、全体的なユースケース数（780件）および実験段階のユースケース数（300件、うち150件はLLM[9]による生成AIに基づくもの）、ならびに最近拡大されたMistral AIとのパートナーシップに示されています。

投資額および進捗状況を示す数字がいくつかあります。当グループは約800人のAI専門家（データサイエンティストまたはAIビジネス・アナリスト）を雇用しており、フィンテック企業（Mistral AIを含む）との260超のイニシアティブ／POC[10]が進行中です。アプリケーションの49%はクラウド・インフラストラクチャーを使用しており（2022年度の計画開始から+50%）、2025年度の目標は60%です。当グループのAPIプラットフォーム上で毎月10億件超の取引が行われています（2023年度末比+56%）。

サイバー・セキュリティは、当グループのIT予算全体の9%を占めており、2023年度にはプライバシーおよびデータ保護に関する研修が約150,000時間実施されました。

サステナビリティ

当四半期にはまた、最近のランキング（特に2024年ユーロマネー誌アワード・フォー・エクセレンスの「ファイナンス・インクルージョンにおける世界最優秀銀行」賞）に示されているように、BNPパリバがサステナビリティ分野のリーダーであることを確認しました。当四半期には、顧客のニーズに対応するための革新的なソリューションがいくつか導入されました。

例えば、世界初のジェンダーボンド（50百万ユーロ）は、当グループが単独でアレンジしました。かかる発行は、アイスランドにおける育児休暇の改善および女性が手頃な価格で住宅を取得するための資金を調達します。

スペインでは、ペルー最大の太陽光発電所を建設するため、Solarpackと176.6百万米ドルの資金調達契約を結び、2025年度第2四半期から約440,000世帯に再生可能エネルギーを供給する予定です。

Cardifは、100百万ユーロ超の運用資産を有する*Fonds Objectif Biodiversité*のローンチに参加することを約束しました。

ベルギーでは、リサイクルおよびクリーンモビリティ材料の世界的な専門企業であり、電気自動車の生産拡大を支援する立場にあるUmicoreに対し499百万ユーロの融資が行われました。

2024年度上半期の当グループの業績

当上半期において、**銀行業務純益**は24,753百万ユーロとなり、2023年度上半期（調整後）[1]と比較して1.7%増でした。

CIB部門の銀行業務純益（9,158百万ユーロ）は、前年同期比3.2%増となり、グローバル・バンキング事業（前年同期比+5.8%）および証券管理事業（前年同期比+8.7%）の増収を反映していました。

CPBS部門[7]の銀行業務純益は横ばいで、13,450百万ユーロでした。特にコマーシャル＆個人向けバンキング事業（BNL：前年同期比+6.5%、CPBL：前年同期比+6.2%）が好調でした。

IPS部門の銀行業務純益は2,892百万ユーロ（前年同期比+1.9%）となり、保険事業（前年同期比+4.7%）、ウェルス・マネジメント事業（前年同期比+5.6%）およびアセット・マネジメント事業[8]（前年同期比+6.2%）における営業収益が好調でした。

グループ全体の**営業費用**は15,113百万ユーロとなり、前年同期（14,942百万ユーロ）と比較して1.1%増加しました。これには、事業再編費用と事業適応費用（79百万ユーロ）およびIT強化費用（172百万ユーロ）の合計251百万ユーロの一時的影響が含まれています。事業部門レベルでは、営業費用は、CIB部門では+1.4%となり、CPBS部門では+4.3%（コマーシャル＆個人向けバンキング事業は+6.1%、専門的金融事業は+0.2%）となりました。IPS部門では横ばいでした。

グループ全体のジョーズ効果はプラスでした（+0.5ポイント）。

グループ全体の**営業総利益**は、当上半期に9,640百万ユーロとなり、前年同期（9,403百万ユーロ）と比較して、2.5%増加しました。

グループ全体の**リスク費用**は1,392百万ユーロ（前年同期は1,201百万ユーロ）でした。

グループ全体の営業外項目（当上半期に633百万ユーロ）には、ウクライナにおける事業の再連結[11]（+226百万ユーロ）およびメキシコにおけるパーソナル・ファイナンスの事業の売却に伴う譲渡益（+118百万ユーロ）が含まれています。

グループ全体の**税引前利益**は8,785百万ユーロとなり、前年同期（8,653百万ユーロ）を上回りました。

平均的な法人税率25.1%に基づくと、主に前述の米国の税制変更により、**当グループの純利益**は6,498百万ユーロ（2023年度は6,516百万ユーロ）となりました。

2024年6月30日現在、**有形自己資本利益率（再評価前）**は12.5%でした。これは、多角的かつ統合的なビジネスモデルを背景とする当グループの堅調な業績を反映しています。

2024年6月30日現在、非常に良好な財務構造

当グループの**普通株式等Tier1比率**は2024年6月30日現在13.0%で、2024年3月31日現在と比較して10ベーシスポイント減少しましたが、監督上の検証・評価プロセス（SREP）の要件および当グループの目標である12%を大幅に上回りました。

この変動は、2024年度第2四半期のリスク加重資産の変動控除後の有機的資本の創出（+40ベーシスポイント）、2024年度第2四半期の分配（配当性向60%に基づくと-30ベーシスポイント）、Bank of the Westの売却に伴う資本の再投資（-10ベーシスポイント）、および当初2025年度に予定されていたモデルの更新（-10ベーシスポイント）の複合的影響によるものでした。

レバレッジ比率[12]は、2024年6月30日現在、4.4%でした。

流動性カバレッジ比率[13]（期末）は、2024年6月30日現在、132%の高水準で（2024年3月31日現在、134%）、**即時利用可能な余剰資金**[14]は、2024年6月30日現在で468十億ユーロに上り、これは資金調達との関係で1年超の余裕資金があることを意味しています。

2024年度決算の方向性の確認

2024年度上半期業績を踏まえ、**BNPパリバは、2024年度決算の方向性として、**営業収益は2023年度[1]の調整後営業収益（46.9十億ユーロ）から2%超増加、ジョーズ効果はプラス[15]、リスク費用は40ベーシスポイント未満、また当グループの純利益は2023年度の調整後純利益（11.2十億ユーロ）を上回る見込みであることを確認しました。

BNPパリバは、既に進行中の下半期において、その方向性を継続するうえで重要な強みを享受しています。これらには、特定の事業や地域への依存を抑制する多角的かつ統合的なモデル、また、より広範には、規模に応じたポジショニング、サイクルを通じて成長する能力、取引関係や顧客ポートフォリオの質の高さなどが挙げられます。さらに、このモデルは、金利が徐々に低下し、手数料を生み出す活動が拡大し続けるというシナリオに適しています。

ホールセールバンキング（CIB）部門

2024年度第2四半期のCIB部門の業績

当四半期のCIB部門の業績は、3つの事業すべての業績が非常に好調であったことにより好調でしたが、特にグローバル・マーケット事業内の株式・プライムサービス事業が好調でした。

銀行業務純益は、4,481百万ユーロとなり、前年同期比12.1%増でしたが、これは3つの事業すべてにおける好業績の複合的な影響によるものでした。特に、株式・プライムサービス事業の力強い成長（前年同期比+57.5%）がFICCの減少（前年同期比-7.0%）を大幅に相殺したため、グローバル・マーケット事業（前年同期比+17.6%）が好調でした。グローバル・バンキング事業（前年同期比+5.4%）もキャピタルマーケット事業（前年同期比+12.5%[6]）およびトランザクションバンキング業務（前年同期比+7.6%[6]）により好調でした。証券管理事業（前年同期比+10.5%）は、手数料収入および正味受取利息の改善に支えられました。

営業費用は、2,489百万ユーロとなり、前年同期比9.4%増（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+8.9%）で、これは当四半期の事業活動が非常に好調であったこと、前年同期が低水準だったこと、およびプラットフォームのさらなる開発のための投資が行われたことに関連しています。ジョーズ効果は、極めて高水準（+2.7ポイント、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+3.1ポイント）でした。

営業総利益は、1,992百万ユーロとなり、前年同期比15.6%増でした。

リスク費用は、106百万ユーロの戻入があり、これは正常債権（ステージ1および2）に対する引当金の戻入を反映したものでした。リスク費用は、顧客向け融資残高の-17ベーシスポイント相当でした。

こうした良好な業績により、CIB部門の**税引前利益**は、2,099百万ユーロとなり、非常に高水準であった前年同期と比較しても16.2%増でした。

CIB部門－グローバル・バンキング事業

グローバル・バンキング事業では、営業収益の大幅な伸びに反映されているように、当四半期において事業の勢いが非常に好調でした。

グローバル・バンキング事業の営業収益（1,502百万ユーロ）は、前年同期比5.4%増となり、特にEMEA地域および米州において増加しました。事業部門別では、キャピタルマーケット事業のプラットフォームにおける営業収益が増加し（前年同期比+12.5%[6]）、特にEMEA地域、およびすべての地域のトランザクションバンキング業務の営業収益が増加しました（前年同期比+7.6%[6]）。オリジネーション業務は、特に債券市場において非常に活発でした（国際的な取引高は13.0%増[16]）。

融資残高は183十億ユーロで、前年同期比1.7%増[6]、前四半期比2.1%増[6]となりました。預金残高は213十億ユーロとなり、微増しました（前年同期比+1.2%[6]）。

グローバル・バンキング事業は、シンジケートローンおよび債券発行においてEMEA地域のリーダー[17]、投資適格社債発行で世界第4位[17]、前四半期にEMEA地域におけるトランザクションバンキングの営業収益では同順位で第1位[18]、ならびにサステナブルファイナンスにおいて欧州および世界のリーダー[19]として、当四半期において主導的地位にあることを確認しました。

CIB部門－グローバル・マーケット事業

当四半期は、株式・プライムサービス事業における非常に力強い増加が顕著でした。

グローバル・マーケット事業の営業収益は、2,249百万ユーロとなり、前年同期比17.6%増と大幅に増加しました。

株式・プライムサービス事業の営業収益は1,147百万ユーロとなり、すべての事業部門において大幅に増加しましたが（前年同期比+57.5%）、顧客の高い需要により、特にプライムサービス業務（運用資産残高は前年同期比約40%増）および株式デリバティブ業務において力強い増加が見られました。営業収益は3つのすべての地域で増加しました。

FICC事業の営業収益は1,102百万ユーロとなり、前年同期比7.0%減でした。クレジット業務は非常に好調でしたが、営業収益は前年同期を全体的に下回り、特に欧州における需要の低下を背景にコモディティについて伸び悩んだことにより、相殺されました。

ランキングに関しては、グローバル・マーケット事業は、マルチディーラー電子取引プラットフォームの分野のリーダーであることを確認しました。

市場リスクの尺度である平均バリュー・アット・リスク（VaR。信頼区間99%、保有期間1日）は、主として金利範囲におけるリスクの低下により、前四半期比6百万ユーロ減の30百万ユーロとなりました。

CIB部門－証券管理事業

当四半期は、事業活動が堅調でした。

証券管理事業の銀行業務純益は、730百万ユーロとなり、力強い増加を達成しました（前年同期比+10.5%）。その要因は、平均残高の増加に伴う正味受取利息および手数料の増加による影響でした。（Flossbach von StorchおよびBerenbergとの間で）2件の新規マンデートを受けました。一方で、プライベートキャピタルの事業拡大も続いています。

残高は、主として市況の上昇および新規マンデートの実施により、増加しました（期末現在、前年同期比+8.1%）。取引高は、平均ボラティリティの低下にもかかわらず、6.0%増加しました。証券管理事業は、2024年ユーロマネー誌アワード・フォー・エクセレンスの「証券管理事業に関する世界最優秀銀行」賞を受賞し、当該分野のリーダーであることを確認しました。

2024年度上半期のCIB部門の業績

当上半期において、CIB部門の**銀行業務純益**は、前年同期比3.2%増の9,158百万ユーロとなり、**営業費用**は、前年同期比1.4%増の5,230百万ユーロとなりました。

CIB部門の**営業総利益**は、前年同期比5.8%増の3,927百万ユーロとなり、**リスク費用**は、201百万ユーロの戻入となりました。

以上から、CIB部門の**税引前利益**は、前年同期比9.0%増の4,132百万ユーロとなり、CIB部門では優れた上半期業績が確認されました。

2024年度第2四半期のCPBS部門の業績

当四半期のCPBS部門の業績は、質の高いフランチャイズおよびパートナーシップに後押しされ、力強い事業活動の勢いが顕著でした。

銀行業務純益[7]は、6,758百万ユーロとなり、前年同期比0.3%減でした。当四半期の銀行業務純益は、逆風による影響を受けていましたが、そのいくつかは2024年度第3四半期には解消し始める見込みです。かかる逆風には、フランスのインフレ・ヘッジ（-45百万ユーロ、その影響は2024年度第3四半期に消滅の見込み）、ベルギー国債の発行（-49百万ユーロ、その影響は2024年度下半期に弱まる見込み）およびECBによる法定準備金への付利の終了の決定（-45百万ユーロ）が含まれます。当四半期は、アルバルにおける中古車価格の高水準での正常化およびパーソナル・ファイナンスにおける中期ファイナンス費用の増加も顕著でした。

コマーシャル&個人向けバンキング事業の営業収益は、4,229百万ユーロとなりました（前年同期比+1.7%）。正味利息収益は、前述の逆風[20]の影響を除くと3.8%増で、その要因は預貸利鞘の拡大でした。手数料は、主としてフランス、イタリアおよび欧州・地中海沿岸諸国における好調な業績により、7.4%増となりました。プライベートバンキングへの資金流入は非常に好調で5.6十億ユーロに達し（前年同期比+9.0%）、2024年6月30日現在の運用資産残高は291十億ユーロでした。Hello bank!は拡大し続け、顧客数は3.6百万人でした（前年同期比+7.0%）。

専門的金融事業の営業収益は、2,530百万ユーロとなりました（前年同期比-3.6%）。かかる減少は、アルバルとリーシング・ソリューションズに起因しており（前年同期比-5.5%）、取扱高の増加およびパートナーシップの拡大に関連したアルバルにおける金融マージンおよびサービスマージンの増加にもかかわらず、中古車価格によりもたらされました。リーシング・ソリューションズでは、取扱高およびマージンともに増加しました。パーソナル・ファイナンスの営業収益は、微減となりました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、前年同期比-0.9%）。戦略的な重点地域の転換の実施を継続したパーソナル・ファイナンスは、モビリティ部門のパートナーシップおよびスペインにおけるOrangeとのパートナーシップの開始による増加により、堅調な取引高を達成しました。Nickelは、拡大の方向性を維持しました（2024年6月30日現在、口座開設数[21]は約4百万件）。

営業費用[7]は、5.6%増加しました（イタリアにおけるDGSへの拠出金を除くと、前年同期比+4.3%）。営業費用は、ユーロ圏内のコマーシャル&個人向けバンキング事業では抑制されていました（前年同期比+3.5%）。前述の逆風およびイタリアにおけるDGSへの拠出金の影響を除くと、ジョーズ効果はプラスで、1.5ポイントを上回りました。欧州・地中海沿岸諸国では、営業費用には、特にトルコおよびポーランドにおけるインフレならびにウクライナにおける再連結が含まれていました。専門的金融事業では、営業費用は減少しました（前年同期比-1.0%）。パーソナル・ファイナンス、リーシング・ソリューションズおよびニューデジタル事業では、ジョーズ効果はプラスでした。

営業総利益[7]は、2,770百万ユーロとなりました（前年同期比-7.8%）。

リスク費用[7]その他は、特にフランスにおける特殊な信用状況（123百万ユーロ）およびポーランドにおける金融商品に係るリスクに関するその他の純損失（91百万ユーロ）により、916百万ユーロ（前年同期は653百万ユーロ）となりました。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のCPBS部門の**税引前利益**[22]は、1,796百万ユーロに達しました（前年同期比-24.0%）。参考までに、パーソナル・ファイナンスおよび欧州・地中海沿岸諸国は、前年同期の「その他の営業外項目」において非経常的項目のプラスの影響を計上しました。

CPBS部門－フランスのコマーシャル＆個人向けバンキング

当四半期中、CPBFの商業活動は、プライベートバンキング業務における非常に高い資金流入、Hello bank!における顧客獲得および相互販売の拡大が示すように、質の高いフランチャイズにより支えられていました。

顧客向け融資残高は前年同期比1.6%減で、取引高は前四半期比で横ばいでしたが、当四半期中、住宅ローンおよび法人向け貸出の組成は増加しました。預金残高は、前年同期比2.5%減でしたが、前四半期比では1.1%増であり、当上半期中の内訳は安定していました。オフバランス貯蓄商品は、2023年6月30日現在と比較して5.7%増で、生命保険における資金純流入は堅調（2024年6月30日現在、+1.6十億ユーロ）でした。BNP Paribas Cardifとの相互販売は拡大しています。

プライベートバンキングへの資金純流入は非常に好調で、3.8十億ユーロに達しました。

Hello bank!は持続的なペースで新規顧客獲得を続け（当上半期中に約195,000人、前年同期比2.5倍）、順調な有機的成長およびOrange Bankの事業の良好な進展がこれを後押ししました。

銀行業務純益[7]は、1,663百万ユーロとなり、前年同期比3.1%減でした。インフレ・ヘッジ（正常化の過程において、-45百万ユーロ）および法定準備金への付利の終了（-20百万ユーロ）の影響を除くと、銀行業務純益は横ばいでした（前年同期比+0.7%）。正味利息収益[7]は、11.0%減少しました（逆風の影響を除くと、前年同期比-4.2%）。手数料[7]は、カードおよびキャッシュマネジメントの手数料ならびにプライベートバンキングにおける運用資産残高ベースの手数料により増加しました（前年同期比+6.1%）。

営業費用[7]は、1,118百万ユーロとなり（前年同期比+0.4%）、インフレにもかかわらず、コスト節減策の継続的な効果により抑制されていました。

営業総利益[7]は、545百万ユーロとなりました（前年同期比-9.4%）。

リスク費用[7]は、239百万ユーロ（前年同期は151百万ユーロ）となり、特殊な信用状況に関連して顧客向け融資残高の41ベーシスポイント相当となりました（当該状況を除くと、20ベーシスポイント相当）。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のCPBFの税引前利益[22]は、262百万ユーロに達しました（前年同期比-35.5%）。

CPBS部門－BNLバンカ・コメルシアーレ（BNL bc）

BNL bcは、当四半期中、預金残高の増加およびすべての顧客セグメントにおける預貸利鞘の改善の継続により、引き続き良好な本源的業績を示しました。

顧客向け融資残高は、全体では前年同期比7.1%減となり、不良債権を除くと6.0%減となりました。これは、とりわけ、競争環境の中で、組成時の利鞘の管理が規律をもって行われたことによります。預金残高は、前年同期比5.9%増となりましたが、これは、一方で、法人向けおよびプライベートバンキングの顧客の預金残高が増加し、他方で、すべてのセグメントにおいて預貸利鞘の改善が継続したことによるものでした。オフバランス貯蓄商品は、2023年6月30日現在と比較して3.9%減少しました。

銀行業務純益[7]は、722百万ユーロとなりました（前年同期比+5.0%）。正味利息収益は、預貸利鞘により3.7%増加しましたが、取引高の減少および貸出利鞘の縮小により一部相殺されました。手数料もまた、特に生命保険における金融手数料の大幅な増加に、キャッシュマネジメントの手数料の増加が加わり、前年同期比7.0%増と大幅に増加しました。

営業費用[7]は、13.6%増の486百万ユーロとなりました（IFRICに基づき当四半期に支払われた51百万ユーロのDGSへの拠出金[23]を除くと、+1.1%）。ジョーズ効果はIFRICの影響を除くとプラスでした。

営業総利益[7]は、9.2%減の235百万ユーロとなりました。

リスク費用[7]は、前年同期の低水準から18.4%増加し、95百万ユーロとなり、顧客向け融資残高の53ベーシスポイント相当となりました。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のBNL bcの税引前利益[22]は、133百万ユーロとなり、22.5%減の大幅な減益となりました。

CPBS部門－ベルギーのコマーシャル＆個人向けバンキング（CPBB）

CPBBの事業は堅調で、Bpost bankの統合が成功したことで、引き続きオペレーティングモデルの変革が進みました。

顧客向け融資残高は、住宅ローンおよび法人向け貸出の増加により、前年同期比2.1%増となりました。預金残高は、前年同期比3.8%減（2024年9月に満期となるベルギー国債の発行による影響を除くと+0.5%）でした。法人顧客の預金は、前年同期比3.6%増でした。オフバランス貯蓄商品[24]は、ミューチュアル・ファンドに支えられて、2023年6月30日現在と比較して5.5%増でした。当四半期におけるプライベートバンキングへの資金純流入は、1.2十億ユーロでした。

銀行業務純益[7]は、3.4%減（法定準備金への付利の終了およびベルギー国債の影響（併せて-65百万ユーロ）を除くと+3.1%）の972百万ユーロとなりました。正味利息収益[7]は、前述のベルギー国債の影響および貸出利鞘の縮小に関連して、4.0%減（前年同期比+5.2%[25]）でした。専門子会社の業績は好調でした。手数料[7]は、決済手数料に対する規制上および商業上の影響ならびに2023年の個人顧客による高水準の貯蓄活動が、プライベートバンキングの金融手数料の増加により一部相殺されたことによって、1.8%減でした。

営業費用[7]は、1.6%増の577百万ユーロとなり、これはインフレによるものでしたが、コスト節減策およびBpost bankの統合の成功に伴うオペレーティングモデルの変革によって一部相殺されました。

営業総利益[7]は、9.8%減の395百万ユーロとなりました。

リスク費用[7]は、11百万ユーロの戻入（前年同期は19百万ユーロ）により極めて低い水準を維持し、顧客向け融資残高の-3ベーシスポイント相当でした。これは正常債権（ステージ1および2）に対する引当金の戻入および不良債権（ステージ3）に対する引当金の減少に関連しています。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のCPBBの税引前利益[22]は、387百万ユーロとなりました。

CPBS部門－ルクセンブルクのコマーシャル＆個人向けバンキング（CPBL）

CPBLの業績は、正味利息収益の好調により、引き続き非常に好調でした。

銀行業務純益[7]は、5.5%増の153百万ユーロとなりました。正味利息収益[7]は、預貸利鞘（特に法人向け）の堅調な回復および有価証券売却益に関連して、6.2%増でした。CPBLは、特にプライベートバンキングにおいて良好な手数料の増加を達成し、前年同期比1.9%増[7]でした。

営業費用[7]は、73百万ユーロとなり、6.0%増加しましたが、これはインフレおよび銀行税に関連したベース効果によるものでした。ジョーズ効果は、IFRICの影響を除くとプラス（+1.1ポイント）でした。

営業総利益[7]は、79百万ユーロとなり、大幅な増益（+5.2%）でした。

リスク費用[7]は、4百万ユーロの戻入と極めて低い水準を維持しました。

プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のCPBLの税引前利益[22]は、81百万ユーロに達し、11.5%増と大幅に増加しました。

CPBS部門－欧州・地中海沿岸諸国

ポーランドおよびトルコにおける好調な事業の勢いにもかかわらず、欧州・地中海沿岸諸国の税引前利益は、ポーランドでの引当金繰入に伴い、大幅に減少しました。対照的に、トルコのハイパーインフレの影響は、前年同期と比較すると相対的に緩やかでした。

顧客向け融資残高は、取引高の増加により、前年同期比6.3%増[6]となりました。ローン組成は、ポーランドにおいて個人顧客向けに慎重に行われ、トルコにおいてすべての顧客セグメントで組成件数が回復しています。預金残高は、トルコおよびポーランドにおける好調な勢いにより、前年同期比9.9%増[6]でした。

銀行業務純益[7]は、718百万ユーロとなり、3.2%増加[26]しました。これは、主にポーランドにおける正味利息収益の大幅な増加およびトルコにおける手数料の増加によるものでした。

営業費用[7]は、高インフレにより、493百万ユーロとなり、31.6%増加[26]しました。

営業総利益[7]は、226百万ユーロとなり、33.2%減少[26]しました。

リスク費用[7]は、顧客向け融資残高の18ベーシスポイント相当となり、前年同期の低水準（正常債権（ステージ1および2）に対する引当金の戻入）から増加しました。

金融商品に係るリスクに関するその他の純損失[26]には、ポーランドの「債務者支援法」による影響（-47百万ユーロ）およびポーランドにおけるその他の引当金による影響（-44百万ユーロ）が含まれています。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後の欧州・地中海沿岸諸国の**税引前利益**[22]は、134百万ユーロに達し、60.6%減[26]と大幅に減少しました（トルコのハイパーインフレの影響を除くと、前年同期比-58.2%）。

CPBS部門－専門的金融事業－パーソナル・ファイナンス

当四半期において、パーソナル・ファイナンスは、オペレーティングモデルの変革による初期的な影響の恩恵を受け、ジョーズ効果はプラスとなりました。

顧客向け融資残高は、主にモビリティ部門の成長およびローン組成時の選択性の向上により、前年同期比3.3%増加[6]しました。組成時の利鞘は、継続的な競争圧力にもかかわらず、継続して上昇しました。

スペインおよびフランスにおけるOrangeとのパートナーシップの実施の影響および自動車ローンにおけるパートナーシップの好調な伸びが、取扱高の増加およびリスクプロファイルの構造的改善に好影響を及ぼしました。

事業活動の地理的な重点地域の転換およびオペレーティングモデルの再編成が引き続き実施されています。

銀行業務純益は、1,266百万ユーロとなり、0.9%減少[6]（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含むと-4.6%）しました。これは、主に中期的な資金調達コストの上昇によるものですが、価格戦略および取引の増加により一部相殺されました。

営業費用は、コスト節減策の影響により、4.8%減[6]（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含むと-6.7%）の684百万ユーロとなりました。それにより、ジョーズ効果は当四半期においてプラス（+3.9ポイント[6]）でした。

営業総利益は、2.0%減少し、581百万ユーロとなりました。

リスク費用は、リスクプロファイルの構造的改善があったにもかかわらず、わずかに増加して、409百万ユーロ（前年同期は363百万ユーロ）となりました。2024年6月30日現在、顧客向け融資残高の152ベーシスポイント相当でした。

以上から、税引前利益は、184百万ユーロとなり、30.9%減[6]（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含むと-36.4%）と大幅に減少しました。参考までに、パーソナル・ファイナンスは、前年同期の「その他の営業外項目」において非経常的項目のプラスの影響を計上しました。

CPBS部門－専門的金融事業－アルバルとリーシング・ソリューションズ

当四半期は、中古車価格の正常化、ならびにアルバルの金利マージンおよびサービスマージンの改善が特徴的でした。

アルバルのファイナンスフリートの契約台数は大幅に増加し（2023年6月30日現在と比較して+6.4%[27]）、ファイナンスリース残高も増加しました（前年同期比+22.8%）。個人向けへの提供（2023年6月30日現在と比較して+16.3%[27]）は、自動車メーカーとの提携を通じて展開されています。海外では、主にElement－アルバル－住友三井のアライアンスが提供するグローバルなカバレッジにより、海外の大手顧客との取引が好調でした。中古車価格の高水準での緩やかな正常化が続いていますが、好調な販売台数の影響（当四半期の販売台数は110,000台）により一部相殺されています。

リーシング・ソリューションズのファイナンスリース残高は、前年同期比2.6%増となり、利鞘も改善しました。事業活動も好調で、生産量は前年同期比16.0%増となりました。HP Inc.との間で、機器ファイナンスおよびライフサイクル管理ソリューションの提供に関するパートナーシップを締結しました。

アルバルとリーシング・ソリューションズの銀行業務純益は合計で989百万ユーロとなり、5.5%減となりました。全体として、中古車価格の正常化は、アルバルの金利マージンおよびサービスマージンの増加により一部相殺されました。リーシング・ソリューションズの営業収益は、販売台数の影響および利鞘の改善により増加しています。

営業費用は、インフレおよび事業活動に伴い、5.9%増の379百万ユーロとなりました。

アルバルとリーシング・ソリューションズの税引前利益は18.1%減の539百万ユーロとなりました。

CPBS部門－専門的金融事業－ニューデジタル事業と個人投資家事業

当四半期の事業は非常に好調でした。

Nickelの販売拠点数は増加し（2023年6月30日現在と比較して+16.1%）、Nickelは欧州で引き続き拡大しました。Nickelは、サービスおよび商品の提供（フランスにおける100%のデジタル口座開設経路等）を発展させ、支払いサービス（Apple Pay、Google Pay等）を拡大し、当グループの他部門との提携により多様化されたサービスおよび商品の提供を継続しました（Floaとの「*coup de pouce*」ローン[28]等）。

Floaに関しては、フランスで多くのパートナーシップが締結され、事業は国際的に発展しています（アクティブ・パートナーシップの数は、前年同期比2.3倍）。

個人投資家事業の運用資産残高は大幅に増加し（2023年6月30日現在と比較して+14.7%）、これは金融市場の動向の好影響および高水準の取引件数によるものでした。

以上から、銀行業務純益[7]は9.5%増の275百万ユーロとなりました。これは、Nickelの効率的な有機的成長および個人投資家事業の金利環境に対する営業収益の堅調な回復を反映していました。

営業費用[7]は、事業開発戦略により10.1%増の176百万ユーロとなりました。

営業総利益[7]は99百万ユーロとなり（前年同期比+8.3%）、リスク費用[7]は22百万ユーロ（前年同期は30百万ユーロ）となりました。

ドイツ国内プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のニューデジタル事業と個人投資家事業の税引前利益[22]は、30.0%増と大幅に増加し、76百万ユーロとなりました。

2024年度上半期のCPBS部門の業績

当上半期において、**銀行業務純益**[7]は13,450百万ユーロとなり、前年同期と比較して横ばいでした。

営業費用[7]は、8,470百万ユーロとなり、前年同期比4.3%増でした。

営業総利益[7]は、4,980百万ユーロとなり、前年同期比6.5%減でした。

リスク費用[7]は、1,642百万ユーロ（前年同期は1,253百万ユーロ）となりました。

税引前利益[22]は、3,313百万ユーロ（前年同期は4,116百万ユーロ）となりました。

インベストメント＆プロテクションサービス（IPS）部門

2024年度第2四半期のIPS部門の業績

IPS部門の運用資産残高および営業収益は、市場動向の影響と資金純流入により、当四半期に堅調な成長を達成しました。

2024年6月30日現在の**運用資産残高**[29]は、1,312十億ユーロ（2023年12月31日現在と比較して+6.1%、2024年3月31日現在と比較して+2.2%）となりました。これは、資金純流入（+42.1十億ユーロ）、市場動向（+28.2十億ユーロ）および緩やかな為替レートの値動きの影響（+2.4十億ユーロ）が相まって生じた結果を反映したものでした。資金純流入は、販売網の多様性により、すべての事業部門で好調でした。

ウェルス・マネジメント事業は、特にコマーシャル＆個人向けバンキング事業において、国際的な大口顧客に関連して非常に好調な資金流入を達成しました。**アセット・マネジメント事業**も、主にマネー・マーケット・ファンドにより好調な資金流入を達成しました。**保険事業**は、特にフランス国内の貯蓄型保険業務において好調な資金流入を達成しました。2024年6月30日現在の運用資産残高[29]の内訳は、アセット・マネジメント事業およびリアル・エステート[30]が601十億ユーロ、ウェルス・マネジメント事業が446十億ユーロ、ならびに保険事業が265十億ユーロでした。

営業収益は、3.0%増（リアル・エステートおよびプリンシパル・インベストメンツの寄与を除くと+6.5%）の1,472百万ユーロとなりました。これは、保険事業、アセット・マネジメント事業およびウェルス・マネジメント事業において非常に好調な勢いがあったことを反映していました。プリンシパル・インベストメンツの営業収益は高いベース効果により減少し、リアル・エステートの営業収益も市場低迷により減少しました。

営業費用は、0.1%増（リアル・エステートおよびプリンシパル・インベストメンツの寄与を除くと+2.6%）の879百万ユーロとなりましたが、ターゲット投資を相殺する効率化および節減策により、抑制されました。ジョーズ効果はプラス（+2.9ポイント）で、リアル・エステートおよびプリンシパル・インベストメンツによる景気循環的影響を除くと極めて高水準（+3.9ポイント）でした。

営業総利益は、593百万ユーロとなり、+7.5%でした。

税引前利益は、5.0%増（リアル・エステートおよびプリンシパル・インベストメンツの寄与を除くと+10.6%）の638百万ユーロとなりました。これには、関連会社の業績の減少が反映されました。

IPS部門－保険事業

当四半期は好調な事業活動で増収となりました。

貯蓄型保険業務の業績は、フランス国内外で非常に好調で、総資金流入は大幅に増加しました（前年同期と比較して+11.6%）。資金純流入は、特にフランス国内における社内ネットワークおよび外部販売網を通じた好調な事業活動を反映し、大幅に増加しました。

保障保険業務の総収入保険料は、前年同期と比較して8.1%増加しました。国際的には、パートナーシップおよびマルチ・チャンネル・モデルの強さが原動力となり、引き続き好調に拡大しました。保障保険業務は、フランスにおいて個人向け保障保険の新商品を展開させ、Lemonadeとの提携による住宅保険やOrangeとの提携によるアフィニティ保険を拡大するなど、引き続きサービスを充実させました。

営業収益は、フランスにおける好調な業績およびモデル展開により、5.2%増加して586百万ユーロとなりました。

営業費用は204百万ユーロとなり、横ばいで、ターゲット投資は効率化策によって相殺されました。ジョーズ効果は極めて高水準（+5.0ポイント）でした。

保険事業の税引前利益は、428百万ユーロとなり、6.9%増加しました。

IPS部門－ウェルス＆アセット・マネジメント事業[31]

当四半期は、ウェルス＆アセット・マネジメント事業[8]の資産および収益が大幅に増加しました。

ウェルス・マネジメント事業は、特にコマーシャル＆個人向けバンキング事業において、および大口顧客に関連して非常に好調な資金純流入（当四半期において12.9十億ユーロ）を達成しました。取引はすべての地域において活発でした。

アセット・マネジメント事業[8]の資金流入も、マネー・マーケット・ファンドの増加により、非常に好調（当四半期は10.9十億ユーロ）でした。第8条または第9条に分類される運用資産[32]は大幅に増加しました（当上半期は+17十億ユーロ）。

ウェルス・マネジメント事業の営業収益は、手数料の増加および正味利息収益の回復により、6.1%増の419百万ユーロとなりました。アセット・マネジメント事業[8]の営業収益も、運用資産残高の増加により、+9.8%の大幅な増加となりました。営業収益は、プリンシパル・インベストメンツにおける高いベース効果およびリアル・エステートにおける市場低迷により減少しました。

営業費用は675百万ユーロとなり、横ばいでした。

ジョーズ効果は、リアル・エステートおよびプリンシパル・インベストメンツにおける景気循環的影響を除くと高水準（+4.1ポイント）でした。

以上から、ウェルス＆アセット・マネジメント事業の税引前利益は、210百万ユーロとなり、1.4%の増加でした。

2024年度上半期のIPS部門の業績

当上半期において、**営業収益**は2,892百万ユーロとなり、前年同期比1.9%増でした。

営業費用は、1,762百万ユーロとなり、前年同期と比較して横ばいでした。

営業総利益は、1,130百万ユーロとなり、前年同期比4.9%増でした。

税引前利益は、1,211百万ユーロとなり、前年同期比1.0%増でした。

コーポレート・センター

2024年度第2四半期における保険事業に関連する修正再表示

コーポレート・センターの保険事業に関連する修正再表示による銀行業務純益は-277百万ユーロ（前年同期は-305百万ユーロ）、営業費用は283百万ユーロ（前年同期は271百万ユーロ）、税引前利益は6百万ユーロ（前年同期は-33百万ユーロ）となりました。

2024年度第2四半期のコーポレート・センターの業績（保険事業に関連する修正再表示を除く）

銀行業務純益は22百万ユーロ（前年同期は87百万ユーロ）、営業費用は-198百万ユーロ（前年同期は-313百万ユーロ）となりました。後者には、50百万ユーロの事業再編費用と事業適応費用（前年同期は57百万ユーロ）および98百万ユーロのIT強化費用（前年同期は94百万ユーロ）の影響が含まれています。

リスク費用は35百万ユーロ（前年同期は33百万ユーロ）となりました。

以上から、保険事業に関連する修正再表示を除くコーポレート・センターの税引前利益は、-119百万ユーロとなりました。

連結損益計算書 – グループ

（単位：百万ユーロ）	2Q24	2Q23 調整後	2Q24 / 2Q23 調整後	2Q23	1H24	1H23 調整後	1H24 / 1H23 調整後	1H23
グループ								
営業収益	**12,270**	**11,811**	**+3.9%**	**11,363**	**24,753**	**24,345**	**+1.7%**	**23,395**
営業費用および減価償却費	-7,176	-6,884	+4.2%	-6,889	15,113	-14,942	+1.1%	-16,080
営業総利益	**5,094**	**4,927**	**+3.4%**	**4,474**	**9,640**	**9,403**	**+2.5%**	**7,315**
リスク費用	-752	-609	+23.5%	-609	-1,392	-1,201	+15.9%	-1,201
金融商品に係るリスクに関するその他の純損失	-91	0	n.s.	-80	-96	0	n.s.	-130
営業利益	**4,251**	**4,318**	**-1.6%**	**3,785**	**8,152**	**8,202**	**-0.6%**	**5,984**
持分法適用会社投資損益	164	149	+10.1%	149	385	327	+17.7%	327
その他の営業外項目	7	124	n.s.	124	248	124	n.s.	124
税引前利益	**4,422**	**4,591**	**-3.7%**	**4,058**	**8,785**	**8,653**	**+1.5%**	**6,435**
法人税	-886	-1,078	-17.8%	-1,078	-2,052	-1,869	+9.8%	-1,869
少数株主帰属純利益	-141	-170	-17.1%	-170	-235	-268	-12.3%	-268
非継続事業の純利益	0	0	n.s.	0	0	0	n.s.	2,947
株主帰属純利益	**3,395**	**3,343**	**+1.6%**	**2,810**	**6,498**	**6,516**	**-0.3%**	**7,245**
コスト/インカム率	**58.5%**	**58.3%**	**+0.2 pt**	**60.6%**	**61.1%**	**61.4%**	**-0.3 pt**	**68.7%**

2024年度第2四半期事業別業績

	コマーシャル&個人向けバンキングサービス部門（プライベート・バンキングの2/3）	インベストメント&プロテクションサービス部門	ホールセールバンキング部門	事業部門合計	コーポレート・センター	グループ合計
（単位：百万ユーロ）						
営業収益	**6,572**	**1,472**	**4,481**	**12,525**	**-255**	**12,270**
対前年同期（調整後）比	-0.4%	+3.0%	+12.1%	+4.1%	+17.6%	+3.9%
対前四半期比	+1.0%	+3.7%	-4.2%	-0.6%	n.s.	-1.7%
営業費用および減価償却費	-3,892	-879	-2,489	-7,260	84	-7,176
対前年同期（調整後）比	+5.5%	+0.1%	+9.4%	+6.1%	n.s.	+4.2%
対前四半期比	-11.0%	-0.4%	-9.2%	-9.2%	+40.5%	-9.6%
営業総利益	**2,681**	**593**	**1,992**	**5,265**	**-171**	**5,094**
対前年同期（調整後）比	-7.9%	+7.5%	+15.6%	+1.5%	-33.9%	+3.4%
対前四半期比	+25.6%	+10.4%	+2.9%	+14.3%	n.s.	+12.1%
リスク費用	-917	2	106	-809	-34	-843
対前年同期（調整後）比	+40.5%	n.s.	+35.2%	+40.5%	+3.2%	+38.4%
対前四半期比	+26.4%	n.s.	+11.6%	+27.4%	n.s.	+30.7%
営業利益	**1,764**	**595**	**2,097**	**4,456**	**-205**	**4,251**
対前年同期（調整後）比	-21.9%	+8.2%	+16.4%	-3.3%	-29.7%	-1.6%
対前四半期比	+25.2%	+11.7%	+3.3%	+12.2%	n.s.	+9.0%
持分法適用会社投資損益	83	44	4	130	34	164
その他の営業外項目	-48	-1	-2	-51	58	7
税引前利益	**1,798**	**638**	**2,099**	**4,535**	**-113**	**4,422**
対前年同期（調整後）比	-23.8%	+5.0%	+16.2%	-5.0%	-38.0%	-3.7%
対前四半期比	+18.4%	+11.3%	+3.2%	+9.9%	n.s.	+1.4%

	コマーシャル&個人向けバンキングサービス部門（プライベート・バンキングの2/3）	インベストメント&プロテクションサービス部門	ホールセールバンキング部門	事業部門合計	コーポレート・センター	グループ合計
（単位：百万ユーロ）						
営業収益	**6,572**	**1,472**	**4,481**	**12,525**	**-255**	**12,270**
前年同期（調整後）	6,600	1,430	3,998	12,028	-217	11,811
前四半期	6,507	1,420	4,677	12,604	-121	12,483
営業費用および減価償却費	-3,892	-879	-2,489	-7,260	84	-7,176
前年同期（調整後）	-3,689	-878	-2,275	-6,842	-42	-6,884
前四半期	-4,373	-883	-2,741	-7,997	60	-7,937
営業総利益	**2,681**	**593**	**1,992**	**5,265**	**-171**	**5,094**
前年同期（調整後）	2,911	551	1,723	5,186	-259	4,927
前四半期	2,134	537	1,936	4,607	-61	4,546
リスク費用	-917	2	106	-809	-34	-843
前年同期（調整後）	-652	-2	78	-576	-33	-609
前四半期	-725	-4	95	-635	-10	-645
営業利益	**1,764**	**595**	**2,097**	**4,456**	**-205**	**4,251**
前年同期（調整後）	2,259	550	1,801	4,610	-292	4,318
前四半期	1,409	533	2,031	3,972	-71	3,901
持分法適用会社投資損益	83	44	4	130	34	164
前年同期（調整後）	71	58	3	132	17	149
前四半期	96	40	3	139	82	221
その他の営業外項目	-48	-1	-2	-51	58	7
前年同期（調整後）	29	0	2	31	93	124
前四半期	14	1	0	14	227	241
税引前利益	**1,798**	**638**	**2,099**	**4,535**	**-113**	**4,422**
前年同期（調整後）	2,360	608	1,806	4,774	-183	4,591
前四半期	1,519	573	2,033	4,125	238	4,363
法人税						-886
少数株主帰属純利益						-141
非継続事業の純利益						0
株主帰属純利益						**3,395**

BNP PARIBAS
The bank for a changing world

2024年度上半期事業別業績

		コマーシャル&個人向けバンキングサービス部門（プライベート・バンキングの2/3）	インベストメント&プロテクションサービス部門	ホールセールバンキング部門	事業部門合計	コーポレート・センター	グループ合計
(単位：百万ユーロ)							
営業収益		**13,079**	**2,892**	**9,158**	**25,129**	**-376**	**24,753**
	対前年同期（調整後）比	-0.1%	+1.9%	+3.2%	+1.3%	-18.0%	+1.7%
営業費用および減価償却費		-8,264	-1,762	-5,230	-15,257	144	-15,113
	対前年同期（調整後）比	+4.2%	-0.0%	+1.4%	+2.7%	n.s.	+1.1%
営業総利益		**4,815**	**1,130**	**3,927**	**9,872**	**-232**	**9,640**
	対前年同期（調整後）比	-6.7%	+4.9%	+5.8%	-0.8%	-57.7%	+2.5%
リスク費用		-1,642	-2	201	-1,443	-45	-1,488
	対前年同期（調整後）比	+31.5%	-14.8%	n.s.	+23.0%	+65.0%	+23.9%
営業利益		**3,173**	**1,128**	**4,128**	**8,428**	**-276**	**8,152**
	対前年同期（調整後）比	-18.9%	+5.0%	+8.9%	-4.0%	-51.9%	-0.6%
持分法適用会社投資損益		179	83	6	269	116	385
その他の営業外項目		-34	0	-2	-37	285	248
税引前利益		**3,317**	**1,211**	**4,132**	**8,660**	**125**	**8,785**
	対前年同期（調整後）比	-19.4%	+1.0%	+9.0%	-4.9%	n.s.	+1.5%
法人税							-2,052
少数株主帰属純利益							-235
非継続事業の純利益							0
株主帰属純利益							6,498

BNP PARIBAS

The bank for a changing world

連結貸借対照表 – 2024年6月30日現在

（単位：百万ユーロ）	2024年6月30日現在	2023年12月31日現在
資産		
預金および中央銀行預け金	184,461	288,259
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産		
トレーディング目的有価証券	308,256	211,634
貸出金および売戻契約	275,205	227,175
デリバティブ金融商品	278,668	292,079
ヘッジ目的デリバティブ	26,562	21,692
その他の包括利益を通じ公正価値で測定する金融資産		
負債性金融商品	57,141	50,274
資本性金融商品	1,660	2,275
償却原価で測定する金融資産		
金融機関貸出金および債権	48,361	24,335
顧客貸出金および債権	872,147	859,200
負債性金融商品	137,899	121,161
金利リスクヘッジポートフォリオの再測定による調整	(4,683)	(2,661)
保険事業に関連する投資およびその他の資産	267,395	257,098
当期および繰延税金資産	6,253	6,556
未収収益およびその他の資産	174,871	170,758
持分法適用会社投資	7,219	6,751
有形固定資産および投資不動産	47,875	45,222
無形固定資産	4,372	4,142
のれん	5,596	5,549
資産合計	**2,699,258**	**2,591,499**
負債		
中央銀行預金	3,637	3,374
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債		
トレーディング目的有価証券	99,377	104,910
預金および買戻契約	351,110	273,614
負債証券	98,017	83,763
デリバティブ金融商品	264,751	278,892
ヘッジ目的デリバティブ	40,046	38,011
償却原価で測定する金融負債		
金融機関預金	89,008	95,175
顧客預金	1,003,053	988,549
負債性金融商品	201,431	191,482
劣後債	26,912	24,743
金利リスクヘッジポートフォリオの再測定による調整	(14,247)	(14,175)
当期および繰延税金負債	3,470	3,821
未払費用およびその他の負債	149,182	143,673
保険契約に関連する負債	227,865	218,043
保険事業に関連する金融負債	18,553	18,239
偶発債務等引当金	9,326	10,518
負債合計	**2,571,491**	**2,462,632**
連結資本		
資本金、払込剰余金、および利益剰余金	*119,111*	*115,809*
親会社株主帰属当期純利益	*6,498*	*10,975*
資本金、払込剰余金、利益剰余金、および親会社株主帰属当期純利益合計	**125,609**	**126,784**
資本に直接認識される資産および負債の変動	(3,427)	(3,042)
親会社株主資本	**122,182**	**123,742**
少数株主資本	**5,585**	**5,125**
連結資本合計	**127,767**	**128,867**
負債および連結資本合計	**2,699,258**	**2,591,499**

代替的業績指標（ALTERNATIVE PERFORMANCE INDICATORS）– フランス金融市場庁（AMF）の一般規則第223-1条に基づく開示

代替的業績指標	定義	使用理由
保険事業の損益の合計（営業収益、営業費用、営業総利益、営業利益および税引前利益の合計）	保険事業の損益の合計（営業収益、営業総利益、営業利益および税引前利益の合計）（なお、コーポレート・センターに振り替えられる、一部の資産の純損益を通じた公正価値会計（IFRS第9号）により生じるボラティリティを除く。売却時に実現した損益および潜在的な長期減価償却費は、保険事業の損益に含まれる。） グループの調整後の損益の合計は「四半期情報」の表で開示	営業上の本源的業績を反映した保険事業の業績の表示（技術面および財政面）
コーポレート・センターの損益の合計	2023年1月1日から、IFRS第9号が保険事業に適用されるのと同時にIFRS第17号（保険契約）が適用されることを受けて、「コーポレート・センター（保険事業に関連するボラティリティの修正再表示（IFRS第9号）および付随費用（内部の販売会社）を含む）」の損益の合計をいい、以下を含む。 • IFRS第9号公正価値会計に基づく一部の保険資産の認識により生じた業績のボラティリティの、コーポレート・センターの営業収益への修正再表示 • 「保険事業に帰属する」とみなされる営業費用から内部マージンを差し引いた額は、営業収益から差し引いて計上され、営業費用としては計上されない。これらの会計項目は、保険契約を販売する保険事業および当グループの事業体（保険事業を除く）（すなわち内部の販売会社）にのみ関係し、営業総利益には影響を与えない。内部販売契約に関連する項目による影響は、「コーポレート・センター」に帰属する。 グループの調整後の損益の合計は「四半期情報」の表で開示	個々の事業の業績の読み方を混乱させないための、「保険事業に帰属する」営業費用が内部販売契約に及ぼす影響のコーポレート・センターへの振替
事業部門の損益の合計（各事業部門の営業収益、正味利息収益、営業費用、営業総利益、営業利益および税引前利益の合計）	コマーシャル＆個人向けバンキングサービス部門、インベストメント＆プロテクションサービス部門およびホールセールバンキング部門の損益の合計（なお、コマーシャル＆個人向けバンキング事業の損益の合計には、フランス、イタリア、ベルギー、ルクセンブルク、ドイツ、ポーランドおよびトルコのプライベートバンキングの2/3を含む） BNPパリバ・グループの損益の合計 ＝事業部門 + コーポレート・センターの損益の合計 グループの調整後の損益の合計は「コア事業別業績」の表で開示	BNPパリバ・グループの本業の業績を示す指標

代替的業績指標	定義	使用理由
	コマーシャル＆個人向けバンキングにおける正味利息収益は、正味受取利息（財務諸表の注記3.aに定義される）のみならずその他の収益（財務諸表の注記3.c、3.dおよび3.eに定義される）を含むが、手数料（財務諸表の注記3.bに定義される）を除く。コマーシャル＆個人向けバンキングまたは保険契約を販売する専門的金融事業の損益の合計は、「保険事業に帰属する」とみなされる営業費用に対するIFRS第17号の適用（営業収益から差し引いて計上され、営業費用としては計上されない）による会計表示への影響を除く。この影響はコーポレート・センターに及ぶ。	
プライベートバンキングの100%を含むコマーシャル＆個人向けバンキング事業の損益の合計	プライベートバンキング全体の損益を含むコマーシャル＆個人向けバンキング事業の損益の合計 グループの調整後の損益の合計は「四半期情報」の表で開示	コマーシャル＆個人向けバンキング事業の業績を示す指標であり、プライベートバンキングの業績の全部を含む（プライベートバンキングは、コマーシャル＆個人向けバンキング(2/3)とウェルス・マネジメント(1/3)の共同責任のもとに置かれるが、その割合に基づきウェルス・マネジメントに損益を配分する前の数値）
PEL/CELの影響を除く損益の合計（各事業部門の営業収益、営業総利益、営業利益および税引前利益の合計）	PEL/CELの影響を除く損益の合計 グループの調整後の損益の合計は「四半期情報」の表で開示	PEL/CEL口座の全存続期間にわたり発生するリスクに対する引当金変動を除く、当期の損益の合計を表す指標
コスト/インカム率	営業費用を営業収益で除した比率	銀行業務における業務の効率性を表す指標
リスク費用÷期首顧客向け融資残高（単位：ベーシスポイント）	リスク費用（単位：百万ユーロ）を期首の顧客向け融資残高で除した比率 リスク費用には、金融商品に係るリスクに関するその他の純損失は含まない。	事業別の貸出金残高総額におけるリスクレベルの指標
営業費用の変化（IFRIC第21号を除外後）	IFRIC第21号に基づく税金・拠出金を除いた上で、営業費用の変化を算定	IFRIC第21号に基づく税金および拠出金は、事業年度に関わるほぼ全額を上半期に計上するが、その影響を排除し、他の四半期との比較の際の混乱を避け、当事業年度の営業費用の推移をとらえる指標
自己資本利益率（ROE）	ROEの詳細な算定方法については、決算資料に添付された「株主資本利益率」で開示	BNPパリバ・グループの自己資本の収益力を表す指標
有形自己資本利益率（ROTE）	ROTEの詳細な算定方法については、決算資料に添付された「株主資本利益率」で開示	BNPパリバ・グループの有形自己資本の収益力を表す指標

代替的業績指標	定義	使用理由
当グループの調整後純利益	2023年2月1日のBank of the Westの売却後であるだけでなく、単一破綻処理基金の増額の最終年度と予想され、特別損益項目が特徴的な重要な年度である2023年度のグループの本源的業績を反映するために、2023年2月に行われた発表に基づき調整された純利益までの損益の合計。 2023年度決算資料に詳述されている調整は以下の通りである。 - 予想される2023年度における単一破綻処理基金の増額終了の影響を加味する。 - 売却予定の企業の純利益（IFRS第5号の適用）（特に、Bank of the Westの売却による譲渡益）およびBank of the Westの売却に関連する追加的項目を除外する。 - 2022年度第4四半期に欧州中央銀行が決定したTLTROの条件変更に伴うヘッジ調整による一時的なマイナス影響等の特別損益項目および訴訟に対する特別引当金を除外する。 調整後純利益は、2023年度の通常分配の計算および2023年度のグループの業績を観察するために使用される。	Bank of the Westの売却による影響が生じた後の重要な年度であり、単一破綻処理基金への拠出の増額の最終年度と予想され、特別損益項目が特徴的である2023年度における、BNPパリバ・グループの本源的業績を反映した純利益を表す指標
一時項目を除く当グループの純利益	一時項目を除いて算定された株主帰属純利益 一時項目の詳細については、決算資料に添付された「主な一時項目」で開示	多額の非経常的項目あるいは本業の業績を反映しない項目を除外した、BNPパリバ・グループの純利益を表す指標。除外される項目の主なものに、事業再編、事業適応、IT強化および事業変革費用がある。
不良債権カバー率	金融資産（ステージ3）の引当金と当該資産の減損後残高（ステージ3）との関係を表す指標。対象となる資産は、バランスシート上およびオフバランスシートの債権を含み、受け取った担保と相殺する。顧客向けおよび金融機関向け債権には、償却原価で測定される負債および資本を通じて公正価値で測定する有価証券を含む（保険事業を除く）。	不良債権に対する引当の状況を表す指標

比較分析 － 連結範囲の変更および為替レート変動による影響の排除

連結範囲の変更による影響を排除するための方法は、買収、売却など、取引の形態に依る。その計算の根本的な目的は、期間比較可能性を確保することにある。

企業を買収または新設した場合、当該企業の業績は、同企業が過年度に未だ買収あるいは設立されていなかった期間に対応する分について、連結範囲の変更による影響を除く当会計年度の期間から排除する。

事業売却の場合、当該事業体の業績は、売却以降の期間に対応する過年度の四半期について対称的に排除する。

連結の会計処理方法を変更した場合、同一条件の下に調整した四半期業績に対して、2会計年度（当期および前期）の間で存在した最も低い持分比率を適用する。

為替レート変動による影響を除いた比較分析においては、前年度の四半期（比較対象となる四半期）業績を、当四半期（分析対象となる四半期）の為替レートで修正再表示する。これらの計算はすべて、会社の報告通貨を基準に行う。

注：

銀行業務純益：本資料全体にわたり、「銀行業務純益」および「営業収益」は同じ意味で使われている。

営業費用：従業員給与および従業員給付制度に関わる費用、その他営業費用、有形固定資産の減価償却費、無形固定資産の償却費ならびに不動産・機械設備を含む固定資産の減損などの総額を指す。本資料全体にわたり、「営業費用」および「費用」は特に区別することなく使われている。

以下の3つの事業部門がある。

- **ホールセールバンキング（CIB）部門：**グローバル・バンキング事業、グローバル・マーケット事業および証券管理事業
- **コマーシャル＆個人向けバンキングサービス（CPBS）部門：**
  - コマーシャル＆個人向けバンキング事業（フランス、ベルギー、イタリア、ルクセンブルクおよび欧州・地中海沿岸諸国）
  - 専門的金融事業－アルバルとリーシング・ソリューションズ、パーソナル・ファイナンス、ニューデジタル事業（Nickel、Lyf等を含む）および個人投資家事業
- **インベストメント＆プロテクションサービス（IPS）部門：**保険事業およびウェルス＆アセット・マネジメント事業（ウェルス・マネジメント事業、アセット・マネジメント事業、リアル・エステートおよびプリンシパル・インベストメンツを含む）

注釈

1 2023年度の調整後純利益は、2024年2月29日に公表された四半期情報の修正再表示に基づいている。調整後純利益は、2023年度の配当の算出の基礎となるものであり、Bank of the Westの売却による影響および単一破綻処理基金の積立への拠出後の当グループの本源的業績を反映し、特別損益項目を除いている

2 リアル・エステートおよびプリンシパル・インベストメンツを除く

3 リスク費用には、「金融商品に係るリスクに関するその他の純損失」は含まない

4 期末の1株当たり純利益は、当四半期の永久最劣後債に係る配当を除いた純利益および当四半期の期中平均発行済株式数に基づき算出されている

5 投下資本利益率：割当資本（普通株式等Tier1資本）に対する、2022年以降に再配分された資本から生み出される2025年度純利益見積額の割合

6 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

7 プライベートバンキングの100%を含む（フランスのPEL/CELの影響を除く）

8 リアル・エステートおよびプリンシパル・インベストメンツを除く

9 LLM：大規模言語モデル

10 POC：概念実証

11 Ukrsibbank株式の60%を保有。残りの40%は欧州復興開発銀行が保有

12 規則（EU）2019/876に従って算定

13 規則（CRR）575/2013第451a条に従って算定

14 健全性基準（特に米国基準。日中支払システムの需要を除く）を考慮した流動性市場資産または中央銀行の適格（相殺能力）を満たすもの

15 2023年度（調整後）と2024年度のグループ全体の営業収益の増加分から、2023年度（調整後）と2024年度のグループ全体の営業費用の増加分を差し引いたもの

16 出所：Dealogic社、2024年6月30日時点のGlobal DCM（取引高ベース）

17 出所：Dealogic社、2024年6月30日時点のDebt Capital Markets rankingsおよびSyndicated Loans rankings、ブックランナー・ランキング（取引高ベース）

18 出所：Coalition Greenwich 1Q24 Competitor Analytics、同順位で第1位獲得。EMEA地域（欧州、中東およびアフリカ）における前四半期のTransaction Banking（Correspondent Bankingを除くCash ManagementおよびTrade Finance）におけるCoalition Index上位12位の銀行の営業収益に基づくランキング

19 出所：Dealogic社、2024年7月12日時点で取得されたデータに基づくAll ESG Bonds & Loans、EMEA地域およびグローバルのブックランナー・ランキング（取引高ベース）。1G24 Dealogic Sustainable Finance Reviewのデータとは異なる場合がある

20 ベルギー国債の発行、フランスのインフレ・ヘッジおよび法定準備金への付利の終了

21 開業以来の全国における口座開設数

22 プライベートバンキングの3分の2を含む（フランスのPEL/CELの影響を除く）

23 2023年度第3四半期および第4四半期に支払われたもの

24 生命保険およびミューチュアル・ファンド

25 法定準備金への付利の終了およびベルギー国債の影響（-65百万ユーロ）を除く

26 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く。ただし、トルコについてはIAS第29号により、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含む

27 期末におけるフリート契約台数の増加

28 オンラインでのミニ・ローンの提供、4回の分割返済、手数料込み

29 分配金を含む

30 リアル・エステートの運用資産残高：25十億ユーロ

31 アセット・マネジメント、ウェルス・マネジメント、リアル・エステートおよびプリンシパル・インベストメンツ

32 欧州で販売され、サステナブルファイナンス開示規則（SFDR）により第8条または第9条に分類されるオープンエンド型ファンドの運用資産残高

本プレスリリースに含まれる数値は、未監査の数値です。

2024年2月29日、BNPパリバは、特に、2024年1月1日付での単一破綻処理基金（SRF）の積立終了、2024年以降に年間約200百万ユーロと見積もられる地方銀行税への同様の拠出が想定されていること、および2023年度第4四半期より、リスク費用から分離された別個の会計項目である「金融商品に係るリスクに関するその他の純損失」を反映するため、2023年度の四半期の数値を修正再表示したものを公表しました。本プレスリリースに記載されている数値には、この修正再表示が反映されています。

本プレスリリースには、将来の事象に関する現在の見解および見通しに基づいた予測的な記述が含まれています。予測的な記述には、財務上の予測や見積りおよびその基礎となる仮定、将来の事象、事業活動、商品およびサービスに関連する計画、目標および見通しに関する記述、ならびに将来の業績およびシナジーに関する記述があります。予測的な記述は将来の業績を保証するものではなく、BNPパリバとその子会社および出資先企業にまつわる固有リスク、不確実性および仮定によって左右されるものです。さらには、BNPパリバとその子会社の事業展開、銀行業界のトレンド、将来の設備投資および買収、グローバルまたはBNPパリバの主要地域市場における経済状況の変化、市場競争ならびに規制といった要因にも左右されます。これらの事象はいずれも不確実なものであり、現在の見通しとは異なる結果と、ひいては現在の見通しとは大きく異なる業績をもたらす可能性があります。したがって、実際の業績は、様々な要因により、予測的な記述において見積りまたは示唆されたものとは異なる可能性があります。これらの要因には、特に、ｉ）BNPパリバの目標達成能力、ii）高金利の長期化または大幅な利下げの可能性の有無にかかわらず、中央銀行の金利政策による影響、iii）自己資本および流動性に関する規制の変更、iv）インフレの高止まりの長期化またはインフレの再燃およびその影響、ｖ）特にウクライナ侵攻および中東における紛争に関連する、様々な地政学的不確実性および影響、またはvi）本プレスリリースに記載されている事項等が含まれます。

BNPパリバは、新たな情報や将来の事象によって、予測的な記述を公に修正または更新する責任を負いません。これに関連して、「監督上の検証・評価プロセス（Supervisory Review and Evaluation Process : SREP）」は欧州中央銀行（ECB）により毎年実施されますが、BNPパリバ・グループが満たすべき所要資本比率は毎年修正される可能性があることに留意が必要です。

本プレスリリースに含まれるBNPパリバ以外の第三者に関わる情報または外部の情報源から入手した情報は、その真実たることを独自に確認したものではありません。ここに記載の情報や意見に関して、表明または保証を明示あるいは示唆してはおらず、またその公正性、正確性、完全性または正当性に依拠することはできません。BNPパリバまたはその代表者ともに、いかなる過失に対しても責任を負わず、また本プレスリリースもしくはその内容の使用により生ずる、または本プレスリリースやここに記載の情報や資料に関連して生じる、いかなる損失に対しても責任を負いません。

表中および分析において掲載された数値は四捨五入のため、内訳の合計と総数に若干の差異が生じる場合があります。

2024年度第2四半期の損益計算書に記載されている指標の増減率は、2024年2月29日に公表された四半期の修正再表示後の数値を用いて、2023年度第2四半期の調整後の損益計算書を参照して算出されています。2023年度の調整後純利益は、2023年度の配当の算出の基礎となるものであり、Bank of the Westの売却による影響および単一破綻処理基金の積立への拠出後の当グループの本源的業績を反映し、特別損益項目を除いています。

BNPパリバの2024年度第2四半期および2024年度上半期の財務情報の開示は、本プレスリリース、添付資料および四半期情報で構成されています。四半期情報の詳細は、以下のアドレスより入手できます。https://invest.bnpparibas/document/2q24-quarterly-series 法令上要求される開示情報はすべて、登録書類（universal registration document）を含めて、https://invest.bnpparibas.comの「Results（業績）」セクションからオンラインで入手可能であり、フランスの通貨金融法典L.451-1-2条およびフランス金融市場庁（Autorité des Marchés Financiers）の一般規則第222-1条以降の規定に従い、BNPパリバが公表しています。

Investor Relations

Bénédicte Thibord - benedicte.thibord@bnpparibas.com

Equity

Raphaëlle Bouvier-Flory - raphaelle.bouvierflory@bnpparibas.com
Lisa Bugat - lisa.bugat@bnpparibas.com
Didier Leblanc - didier.m.leblanc@bnpparibas.com
Olivier Parenty - olivier.parenty@bnpparibas.com

Debt & Rating agencies

Didier Leblanc - didier.m.leblanc@bnpparibas.com
Olivier Parenty - olivier.parenty@bnpparibas.com

Retail & ESG

Patrice Ménard - patrice.menard@bnpparibas.com
Antoine Labarsouque - antoine.labarsouque@bnpparibas.com

E-mail: investor.relations@bnpparibas.com
https://invest.bnpparibas/en/

BNP PARIBAS

The bank
for a changing
world